

(電子メール施行)

農技第1487号

令和4年8月19日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予察注意報 第3号を發表します。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップでの誘殺数が、6月以降、平年より多く推移しており、早い時期から幼虫の発生が認められています。野菜類、花き類及び豆類において被害の発生、拡大が懸念されますので、発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

令和4年度病虫害発生予察注意報 第3号
シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策について

- | | |
|--------|------------|
| 1 対象作物 | 野菜類・花き類・豆類 |
| 2 病虫害名 | シロイチモジヨトウ |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 8月中旬～10月中旬 |

6 発生状況と今後の予想

- (1) 県内3カ所に設置しているフェロモントラップにおいて、6月以降、平年を上回る誘殺が認められている(図)。7月から8月2半旬の合計誘殺数は、加西市で193頭(過去10年平均69.9頭)、南あわじ市で691頭(過去8年*平均252.0頭)、朝来市で65頭(過去5年*平均22.3頭)と平年の約3倍である。
- (2) 7月下旬に淡路地域のネギ圃場^ほで実施した調査では、幼虫の発生圃場率は50.0%(4/8圃場)であり、昨年(14.2%)や一昨年(20.0%)と比較して早い時期から広く発生が認められている。8月中旬の調査では、幼虫の発生圃場率は76.9%(10/13圃場)であり、寄生株率が80%を超える圃場も認めている。

- (3) 現時点で、ネギの他にも、ピーマン（淡路地域）、トルコギキョウ（神戸地域）、カーネーション（淡路地域）やダイズ（播磨地域）といった様々な作物で幼虫の発生を認めている。
- (4) シロイチモジヨトウは例年9月以降に発生の最盛期を迎える。特に野菜類・花き類では今後、秋作の育苗や本圃への定植が盛期となることから被害が拡大すると予想される。
- (5) 大阪管区気象台の近畿地方の1カ月予報（8月11日発表）によると、気温は平年より高く推移するとされており、シロイチモジヨトウの活動に好適な条件が続くと予想される。

7 防除上の留意点

- (1) 加害作物は、キャベツ、ハクサイ、ネギ等の野菜類から、カーネーション、キク等の花き類、ダイズ、アズキ等の豆類と広範囲におよぶ(写真1)。
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ(写真2)、孵化直後の若齢幼虫は集団で加害する(写真4)。卵塊や分散する前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット（目合4mm以下）、黄色防蛾灯、性フェロモン剤（交信かく乱剤）の利用が有効である。
- (4) 中・老齢幼虫（写真4）には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。圃場間差はあるが、平成30（2018）年から実施している薬剤感受性検定において、一部のジアミド系薬剤の殺虫効果が低い事例を認めている。使用にあたっては散布前と散布後（1～3日後）の状況を観察するなど、防除効果の確認に努める。防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。
(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)
- (5) シロイチモジヨトウの近縁種で、野菜類・花き類・豆類の重要害虫であるハスモンヨトウも今後、発生の最盛期を迎えるため、各圃場での発生状況に注意する。

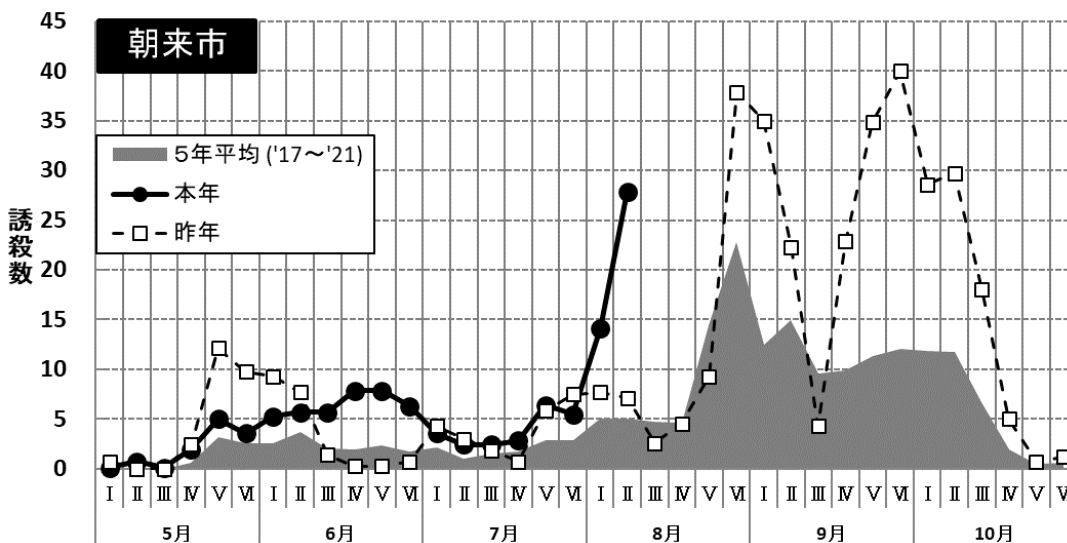
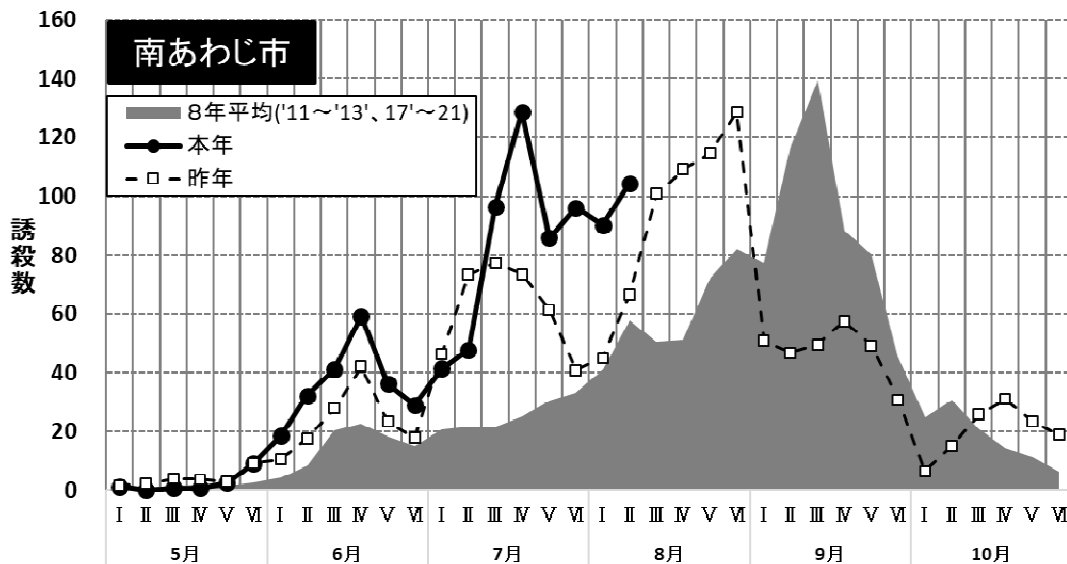
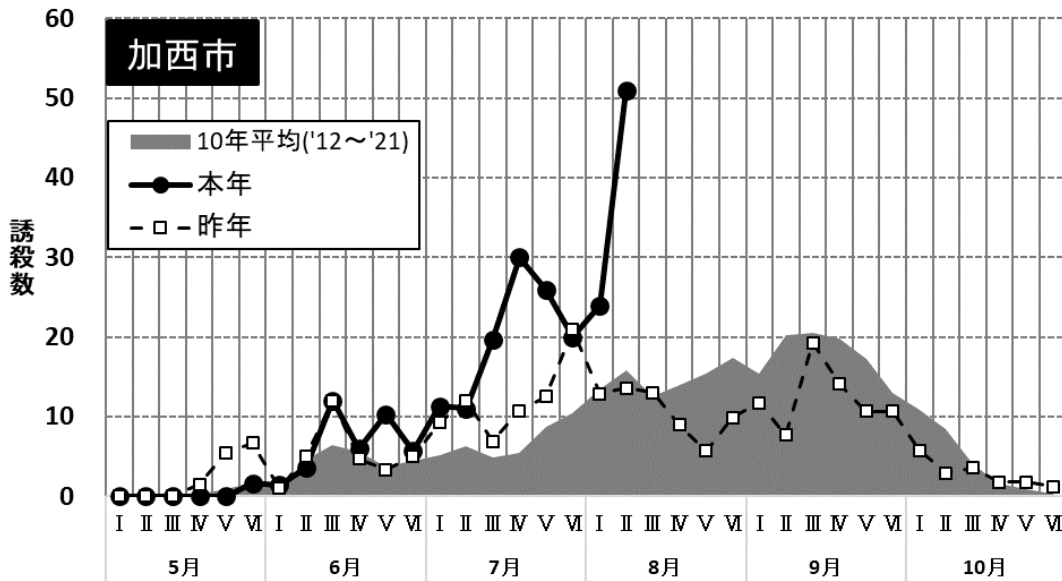


図 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺数の推移
 ※南あわじ市は過去8年分、朝来市は過去5年分しか調査データがない。



写真1 シロイチモジヨトウによる被害（左からネギ、キャベツ、カーネーション）



写真2 シロイチモジヨトウの卵塊と孵化直後の幼虫



写真3 若齢幼虫（集団で加害）



写真4 中・老齢幼虫（体色は黄緑色～黒褐色と多様）

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。
 (<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222